

キャリア教育の資質・能力を向上させるための重点単元計画

福山市立新市中央中学校

キャリア教育で育てる資質・能力

3観点	思考・判断・表現/主体的に学習に取り組む態度	知識・技能/主体的に学習に取り組む態度	知識・技能/思考・判断・表現
資質能力	チャレンジ&チェンジする力	自己理解力	自己表現力
中2・3	・目標達成に向けて、より良い方法を考えて取り組むことができる。 ・達成状況を振り返り、改善策を考えることができる。	日々の学習活動を通して、自分の将来の夢や目標、生き方を考えることができる。	自分の思いや考えを、相手や場に応じて、分かりやすく説明することができる。
中1	活動をふり振り返り、改善策を考える。	自分の将来の夢や目標を持つ。	自分の思いや考えを多様な表現方法を用いて説明できる。

学年	教科	単元名(全7時間)	教科の目標	キャリア教育で育てる資質・能力	関連企業等
2	歴	幕藩体制の確立	知 ①日本の地形や気候、②少子高齢化などの課題を抱える人口、③日本の資源・エネルギー利用の現状、④国内や日本との交通・通信網、などの特色について理解している。	★自己理解 日々の学習状況を通して、自分の将来の夢や目標、生き方を考えることができる。	・鞆の浦歴史民俗資料館
			思 上記の①～④について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。	★自己表現 自分の思いや考えを、相手や場に応じて、分かりやすく説明することができる。	
			主 日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追求しようとしている。	チ ・目標達成に向けて、より良い方法を考えて取り組むことができる。 ・達成状況を振り返り、改善策を考えることができる。	
次	時	学習活動 ★出前授業/キャリア	・指導上の留意点	○教科の評価規準 ★キャリア教育で育成する資質能力の評価規準	評価方法 例：行動観察 ワークシート ペーパーテストなど
1	1	1	・単元全体の学習内容に見通しを持つ。 ・前回の学習態度の振り返りをもとに、この単元で、どのように学習に取り組んでいくかを考えさせる。 ・単元の学習内容へのイメージを持たせるために、視聴覚資料として、単元全体を見通せる動画を視聴させる。(NHK for school)	○自身のより良い学習方法について考え、学習単元全体の見通しを持とうとしている。(主)	・振り返りシート
		1	・江戸幕府の全国支配がどのように確立したかを理解する。 ・教科書の資料、資料集などを広く活用することで、大名配置のねらいについて考えさせる。 ・『学び合い』の学習方法をとり、生徒たちが主体となって学習に取り組むようにする。	○「大名の配置」の地図と「武家諸法度」の史料に着目して、大名統制策や幕府の力を多面的・多角的にとらえて説明できる。(思)	・ワークシート ・振り返りシート
		1	・身分制と農村・都市の様子などをもとに、江戸時代の社会の仕組みを理解する。 ・教科書に掲載されている「衣食による身分の差」を見て、その違いを具体的に考えさせ、その理由を考えさせる。 ・『学び合い』の学習方法をとり、生徒たちが主体となって学習に取り組むようにする。	○「衣食による身分の差」の絵図に登場する人物を比較して、その相違点を指摘し、理由を考察できる。(思)	・ワークシート ・振り返りシート
		1	・江戸時代初期の対外政策について、禁教と貿易統制の視点に立って、その展開を理解する。 ・家康の外交の特徴とそれが秀忠、家光の時代にどう変わっていったかを考えさせることで、対外政策が変化していったことを理解させる。	○禁教と貿易統制の必要から、幕府の対外政策が変化していったことを理解している。(知)	・ワークシート ・振り返りシート
		2	・四つの窓口で展開された江戸時代の対外関係を、幕藩体制と関連づけて理解する。 ・教科書の史料を読み取ることで、幕府が四つの窓口を通じてどのような外交秩序を形成していったかを考えさせる。 ・『学び合い』の学習方法をとり、生徒たちが主体となって学習に取り組むようにする。	○長崎貿易や朝鮮・琉球使節に関する絵図から、必要な情報を読み取っている。(知)	・ワークシート ・振り返りシート
		1	★朝鮮通信使と鞆の浦との関わりを理解する。 ・鞆の浦歴史民俗資料館の学芸員さんに、資料館作成の資料(パンフ)をもとに、地元福山の鞆の浦でどのような交流があったかを具体的な話をしてもらうことで生徒に興味をもたせる。	○★朝鮮通信使と鞆の浦の人々との交流から、国と国とが友好関係を築いていくにはどうすればいいか考えることができる。(知/自理)	・ワークシート ・キャリアパスポート
		1	★様々な視点から見た日本について、資料を読み取る力を付ける。 ・振り返りシートを通じ、単元全体の振り返りをする。 ・幕府の対外政策の変化について考え、まとめさせる。 ・考えた理由を生徒同士で交流させる。	○★これまで学習した資料を用いながら、幕府の対外政策の変化について説明することができている。(思/自表) ○より良い学習に向けて、新しい目標設定をしている。(主)	・ワークシート ・振り返りシート

本単元のループリック(最終課題へ向けて)

- A: 幕府の対外政策の変化について、複数の資料を用いて、具体的な例をあげて説明することができている。
- B: 幕府の対外政策の変化について、資料を用いて説明することができている。
- C: 幕府の対外政策の変化について、説明することができていない。

本単元(出前授業)での成果・子どもの姿(子どもの意見など)

〈成果〉

- 講師が、生徒が知っているアンパンマンと結び付けて説明されたので生徒が関心をもって話を聞いていた。
- 会って交流を深めていくことが、戦争のない平和な時代をつくるということに気づくことができた。

〈子どもの意見〉

- 日本は朝鮮と関係を取り戻すために、朝鮮通信使にせいたくなおもてなしをしていたとわかった。関係を取り戻した方法をヒントに、これからの日々を過ごしたい。
- 朝鮮通信使の人が、漢詩文を寄贈したり、一緒に海上パレードをしたりと関係を築いていたことは意外だった。関係を戻すことができたのに、再び戦争を起こしてしまった。「同じ過ちを二度と起こさない」ことを大切にしたい。
- 友好関係をもって交流していた200年間は戦争もなかったという話が印象に残りました。
- やなせたかしさんは、井伏鱒二さんの影響によって、詩人として決定的な影響を受けたということが印象に残っている。
- 瀬戸内海では通信使の乗った船が海上パレードを繰り広げたということが印象に残った。
- 瀬戸内海で朝鮮通信使の乗った船、それを曳く船など数百隻が華やかに海上パレードを繰り広げていたことに驚いた。菅茶山は通信使の文化を後世へ伝えようとした先駆者だったことがわかった。
- 鞆の浦が瀬戸内海のと真ん中で潮の満ち引きの関係で港町となっていて、朝鮮通信使や琉球王国などのたくさんの船が立ち寄っていたと聞いてびっくりした。また、アンパンマンの作者やなせたかしさんと鞆の浦の関係は聞いていておもしろかったです。

本単元での課題・改善案

- 講師の話が説明、講話という形式だったので、学校側でパワポ、画像など視覚にうったえるものも講師と打ち合わせをして用意しておけばより学習効果が高まったと思う。
- 鞆の浦について調べたことをもとに、他の地域での朝鮮通信使との関わりはどうだったのかを調べてみるなど発展的に学習を深めていってもよかった。

